

図書館だより

2023.2-3月号

「読みたい本がきっと見つかる！」農芸図書館 発行 2023.2.20



年間貸出冊数 2,151 冊 (2/17 集計)

- 1年生 192 冊 (1冊でも借りたことがある…26人)
- 2年生 655 冊 (1冊でも借りたことがある…52人)
- 3年生 540 冊 (1冊でも借りたことがある…66人)
- 職員 764 冊 (1冊でも借りたことがある…36人)

※生徒1人あたりの貸出し冊数は2.2冊。教職員1人あたりの貸出し冊数は6.7冊

貸出回数 TOP5

- 火葬場で働く僕の日常
- メンタル強め美女白川さん
- 泣きたい夜の甘味処
- #真相をお話しします
- 夢を売る百貨店
- 星になりたかった君と



所蔵総冊数 21,979 冊

今年度購入した約600冊のうち、みなさんからのリクエストで購入した本はおよそ60冊。

出版から年数の経った本は他館から借受けもOK

お目当ての本があったら、まずは検索してみてください。



今年度は貸出冊数が大幅にマイナス…なぜだろう？

昨年と比べると1年生の利用者が少ないな。2年生になると教室が近くなるから期待しよう！放課後も館内で読んでいる子はけっこういるよ。テスト期間や検定前は満席になることもあるくらいだ。運命の1冊に出会えるように見やすい展示を心がけ、所蔵は2万2千冊を限度に整理してみたよ。面白い本も古く色褪せた本に紛れると魅力がなかなか伝わらないからね。ジャンルによっては冊数に偏りが出ているけど今後できるだけ新しく買い換えていきたいと思っているよ。

おらせ

春休みも開館！貸出しOK！ 読み終わっている本は 3/24までに返却してね！

NEW TITLE

農芸高校図書館 2023.2.20 発行 今年度の購入リクエストの受付は終了しました。他館からの相互貸借は引き続き可能です。

川のほとりに立つ者は

新型ウイルスが広まった2020年の夏。カフェの店長を務める29歳の清瀬は、恋人の松木とすれ違いが続いていた。原因は彼の「隠し事」のせいだ。そんなある日、松木が怪我をして意識を失い、病院に運ばれた。回復を待つ間、彼の部屋を訪れた清瀬は3冊のノートを見つけた。そこにあった秘密とは…



しろがねの葉

戦国末期、シルバーラッシュに沸く石見銀山。天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは銀山の知識と秘められた鉱脈のありかを授けられ坑道で働き出す。しかし徳川の支配強化により喜兵衛は意気阻喪し、庇護者を失ったウメは過酷な世界にひとり投げ出された。度重なる愛する者との別れ、それでも彼女は運命に抗い続ける。第168回直木賞受賞作。



EDNE

ミヒヤエル・エンテの『鏡の中の鏡』のオマージュとして描かれた、30枚の合わせ鏡の絵たち。同じ絵に見えて同じではない謎の箇所が。あなたは探し出せるかな？
文章は、始めからも終わりからもつながる内容になっていて、大人も楽しめる美しさとしかけがいつぱい。



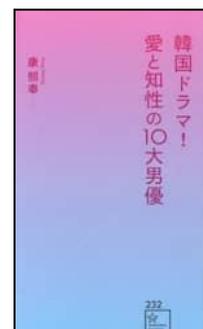
スクロール

僕の前に突如現れた女子高生ハル。僕の隣に住む元彼の「音」だけでも聞きたいと僕の部屋に上がってきた。希望部署にいけずに嫌っていたユウスケはバーで出会った菜穂と付き合いがある事件取材をきっかけにふたりの関係は変わっていく。北村匠海と中川大志のW主演映画の原作。



韓国ドラマ！愛と知性の10大男優

韓国ドラマ界の頂点に君臨するビッグ3本格派、個性派など若き才能、注目のイケメンまで。世界を熱狂させる韓国ドラマに主演する人気俳優の魅力を余すところなく網羅した必読の一冊。あなたの推しは？学歴・兵役といった気になる経歴についても詳しく紹介。



ネズミなんびきでゾウになる？

数字や算数が苦手な子どもに興味を起こさせる優れた本として推奨！“数”にまつわる面白エピソードが満載！イギリス学校図書館協議会インフォメーション・ブック・アワード受賞



変な絵

見れば見るほど、何かがおかしい？不穏なブログ、消えた男児、惨殺死体補導少女…「奇妙な9枚の絵」に秘められた衝撃の真実とは！？
『風に立つ女の絵』
『灰色に塗りつぶされたマンションの絵』
『震えた線で描かれた山並みの絵』
あなたはこの謎に気づけますか？



シャイロックの子供たち

ある町の銀行の支店で起こった現金紛失事件。女子行員に疑いがかかるが、別の男が失踪…！“たたき上げ”の誇り、格差のある社内恋愛、家族への思い、上らない成績…事件の裏に透ける行員たちの人間的葛藤。銀行という組織を通して、普通に働き、普通に暮らすことでの幸福と困難さに迫った傑作群像劇。



大ピンチずかん

あちゃ～こりゃ、ますい！こどもの大ピンチの数々を「ピンチレベル」と「なりやすさ」で分類。それぞれの項目には似たピンチや対処法も。読者の経験と要望に応えます。大人のあなたなら懐かしく、子育て中のあなたなら「そう！それ！」と脱力することまちがいない。。

